

知事との県民対話集会（立科町）概要

- ・開催日時 令和5年9月30日（土） 午後2時30分から午後4時まで
- ・会場 立科町老人福祉センター 集会室
- ・参加者 県民53名、両角立科町長、阿部知事、原佐久地域振興局長 他
- ・テーマ 産業振興について（農業と観光）

・主な発言（要旨）

【参加者】

・立科町と茅野市は、女神湖、白樺湖、蓼科湖を活用した「レイクリゾート構想」を共同発表したが、中央本線や北陸新幹線の駅から観光地までの二次交通が整備されていないことが大きな課題である。3つの湖は複数の市町村にまたがることから、県の支援をお願いしたい。

・県は、空飛ぶくるまなど空の移動革命を推進しようとしていると聞いているが、実証実験の候補地として立科町を検討してほしい。

【参加者】

・観光は観光地だけのものではないと考えているが、観光の生活基盤を含めた地域への貢献度や影響力を県としてどのようにとらえているか。

・誘客や生活基盤の観点からも二次・三次交通の問題は避けて通れない。県と歩調を合わせて取り組みたいが、支援や協調できるものはあるか。

・このエリアは、市町村や地域振興局の管轄をまたいだ活動が必要となるが、そのような活動に対する考え方を教えてほしい。

【知事】

・県は、今年の4月に交通政策局を設置し、レベルを上げて交通問題を考えていこうとしている。

・私は、国の「地域の公共交通リ・デザイン実現会議」のメンバーになっているが、その会議において、中山間地域や過疎地域にとって公共交通は死活的に重要な問題であるため、あらゆる資源を総動員して抜本的な対策を講じてほしいと発言したところである。

・公共交通は、（事業者に対する）赤字補填ではない形で、一定のルールの中で税金を入れる必要があると考えている。交通事業者だけに委ねることでは最適解は出てこないと思う。営利事業で成り立つ地域とそうでない地域を峻別することなどが必要であると思うが、ライドシェアの実施、宿泊施設が所有するマイクロバスや自家用車の活用など、地域の人や資源を活かす取組を一緒に考えさせていただきたい。

・空モビリティについては、条件不利地域の長野県で飛ばせればどこでも飛ばすことができる。実装に向けて安全性の確保等の問題があるが、その点も長野県で実証ができればよいと思う。候補地として、立科町も念頭に置きたい。

・観光については、北海道や京都、沖縄は名前を聞いただけでイメージが湧く、これらの道県のように長野県も観光県としてのブランド力をもっと高めるとともに、観光客だけでなく住んでいる人が、ここに住んでいて幸せだと思えるようにしていくことが重要であると思う。

【原地域振興局長】

・観光は広域でやるべき部分が多いが、うまくできていない部分もある。各地域振興局で連携を強めて取り組んでいく必要があると考えている。

【参加者】

・立科町は、土壌が強粘土質のため大豆や野菜の作付けが難しく、水田転作の未達成地域であるが、県はこのことをどのように考えているか。
・品種維持のためには種子生産が必要だが、生産者が高齢化し、種子センターは老朽化が進んでいる。品種の安定生産についての県の考え方を伺いたい。

【新津佐久農業農村支援センター所長】

・強粘土質で転作が進まないことは承知している。転作目標面積を達成するために、転作に含まれる輸出米や飼料米の生産を働きかけている。また、大豆の栽培が進んでいる地域で試験的に排水対策を実施しており、こうした技術の普及にも努めてまいりたい。

【知事】

・種子については条例を制定し、県としてしっかり守っていくという方針である。課題があれば教えてほしい。

【参加者】

・ワイン用ブドウを栽培し、ワインづくりに取り組んでいる。ワインを単体で売るだけではなく、畑や醸造所を使っての収穫体験や醸造所見学等のイベントと宿泊とのマッチングなど、観光側とタイアップしながら、インバウンドも対象にして計画し、ワインと観光をつなげたいと考えている。そうした場合、二次交通が課題であるため、立科町、地域振興局、県で考えてほしいと思う。
・また、小・中学校、高校の農業体験としてワイン用ブドウ栽培などに取り組んでもらえればよいと思う。

【知事】

・移動の足についてはしっかり考えたいと思う。信州ワインバレー構想の取組を進めワイナリーも増えてきた中で、観光を含めたワインツーリズムをもっと活性化することを考えたいと思っている。
・教育の観点で言えば、体験することや職業体験は重要であると考えている。身近なところでどんな人たちがどのようなことをしているのか、子どもたちが生業に携わることで楽しさや大変さを実感できるようにすることが大事だと思う。

【参加者】

・若い新規就農者がいると周りへの起爆剤となるので、その育成についてより一層支援してほしい。
・銀座NAGANOにおいて、県内での新規就農に視点を置いた取組もあつたらよいと思う。
・気候変動に対応したリンゴの品種改良について、これからも力を入れてほしい。

【知事】

・人の確保や育成はあらゆる産業に共通の課題である。県内で生まれ育った子どもたちに農業に触れる機会を増やしていくとともに、大都会で生まれ育った子どもたちの中にも潜在的に農業をやってみたいと思っている人はいると思うので、そうした人たちに農業の楽しさを伝えていかなければいけないと思う。銀座NAGANOでの就農促進の取組も頭に置いておきたい。
・品種改良等の気候変動対策は農業試験場で行っているが、今年のような暑さに対応するには相当しっかり考えないといけないと思っている。知事会では、農産物を輸出しようというときに、都道府県ごとではなく他県とも連携して行うべきではないかという意見が出ている。県では、連携協定を締結した沖縄県と農業研究をしていきたい。

【参加者】

・立科町は、例えば報道機関からの自治体消滅に関するアンケート調査に回答しないなど、危機意識が欠如していると思う。県内には77市町村あるが、それは適正な数と考えるか。

【知事】

・適正かどうかは見方によると思う。数だけの問題ではなく、団体の規模が大きい方がよい仕事と小さい方がよい仕事がある。長野県に小規模町村が多いということは、強みもあり課題もあると思っている。それぞれの市町村が個性を持っているのが強み。一方で、行政が複雑化する中で、その規模で事務を適正に執行できるかについては、広域化も含めて考えるべき課題と認識している。

【参加者】

・長野県では、車で数分走っただけでアウトドアが楽しめる場所に住むことができる。日本全国や世界を旅したがこんなに特別なところはないと思う。住んでいる人にもそのことを再認識して、取り組んでもらえるようにしてほしい。

【知事】

・豊かな自然を活かし切れしていないという点は意識したい。私も長野県に定住して長くなっているが、初心に帰り、長野県の美しさ、素晴らしさを県民の方と共有していきたいと思う。

【参加者】

- ・ 蓼科高校をぜひ守っていただきたい。

【知事】

- ・ 蓼科高校を含め、県立高校に個性と特色を持ってもらうようにしていきたいと思っており、高校のあり方を大胆に変えていかなければいけないと考えている。

【参加者】

- ・ 国道142号の道の駅女神の里たてしな前に、右折車線を設置していただきたい。1か月前にも人身事故があったが、観光地で事故はあってはならない。
- ・ 観光・産業振興のために、道路整備は最重要課題である。佐久と松本・塩尻を結ぶ高速道路を設置してほしい。

【知事】

- ・ 観光地の事故はイメージを下げることにつながりかねないと思っている。状況をよく聞いてみたい。
- ・ 道路については、やらなければならない事業がたくさんあり、直ちにここにつくるとは言えないが、中長期的な視点では、そうした考え方を持ちながらやっていきたいと考えているのでご理解いただきたい。